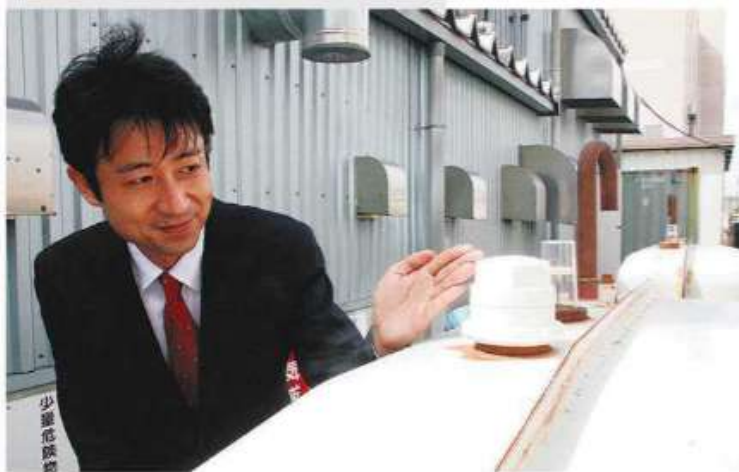


灯油配送効率化へ

⑤金沢丸善が灯油タンクの給油口に設置しているセンサー—金沢市で
 ⑥グラフで灯油の残量を示し、配送日を提案する「GoNOW」のシステム画面—ゼロスペック提供



次回配達予定日:	2024/03/29
推奨配達日(いつも通りの場合):	2024/04/01
推奨配達日(消費ペースが早い場合):	2024/03/15

システム導入広がる

センサーで残量計測・時期を提案

石川、富山両県で、灯油の販売業者が顧客のタンク残量を遠隔監視し、配送を効率化するシステムの導入が広がっている。タンクに取り付けたセンサーが残量を計測し、配送時期を提案。残量確認のために配送先を巡る必要がなくなったため、ドライバー不足の解消のほか、大雪や災害時の重点的な配送にも役立つと期待されている。(高本容平)

システムは、IoT(モノ)と、タンクの給油口に取り付けた小型センサーが液面と油面との距離から灯油の残量を測り、専用の管理システム「GoNOW」(高本容平)

OW(ゴーナウ)で消費量の推移をグラフで可視化。人工知能(AI)が顧客ごとの給油履歴を基に日や週、月単位の配送計画を自動で作る。

北海道や東北をはじめ、37都道府県への導入実績があり、3月末時点で石川県は4社、富山県は5社が導入。石川で約2400台、富山で約700台のセンサーが稼働し

ている。

「かなり便利。これまでは経験頼りで配送に行ったが灯油が減っておらず、無駄足だったというケースもあった。」

このシステムがあれば灯油切れも防げる。石油製品販売の金沢丸善(金沢市)営業部の竹内博紀部長は手応えを語る。

同社は灯油を定期配送する一般家庭向けに、約13000台のセンサーを採用している。オール電化が普及する中でも、高齢者世帯を中心に灯油は給湯や暖房用の熱源として根強いニーズがあり、配送戸数に大きな減少はないという。一方、同業者の廃業や配送トラックの運転手不足が続

き、少ない人員でいかにロスなく運ぶかが課題だった。

竹内部長は「配送計画を立てば、的確にドライバーを配置できる。灯油販売事業は安定した収益源なので、まだまだシステムの導入を増やしたい」と話した。

大雪や地震といった非常時にシステムのデータを自治体間で共有し、灯油が不足している地域に優先して供給することも可能。ゼロスペックの担当者は「灯油から電気やガスに切り替える人が増えているが、災害時ほどのインフラが使用不能になるか分からない。システムが寒冷地のライフラインを守ることにつながれば」と期待した。

大雪や地震といった非常時にシステムのデータを自治体間で共有し、灯油が不足している地域に優先して供給することも可能。ゼロスペックの担当者は「灯油から電気やガスに切り替える人が増えているが、災害時ほどのインフラが使用不能になるか分からない。システムが寒冷地のライフラインを守ることにつながれば」と期待した。